



2025年3月期 第2四半期決算説明資料

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社

東証プライム 6699

2024年11月

I . 2025年3月期 第2四半期決算実績

II . 2025年3月期 通期業績予想

III . 社長メッセージ 「我が社の来し方、行く末」

Appendix. 会社概要・事業内容



I . 2025年3月期
第2四半期決算実績

2025年3月期 第2四半期 決算概要 (P/L)

- 自動車機器事業 :主に為替影響及び中国でのお客様需要増加により増収、加えて材料費率改善により増益
- エネルギーソリューション事業 :売上高は増加するも大幅な回復とならず、セールスマックスによる材料費率悪化の影響により減益
- 電子機器事業 :売上高は為替影響により増加するも、事業区分変更及び主要なお客様の需要影響により減収、セールスマックスによる材料費率改善等により増益
- その他のトピック :前期末に比べ為替相場が円高に振れたことにより為替差損4.6億円を計上（前期は10.6億円の為替差益）
特別利益として固定資産売却益2.4億円を計上、法人税等5.3億円を計上（前期は4.6億円）

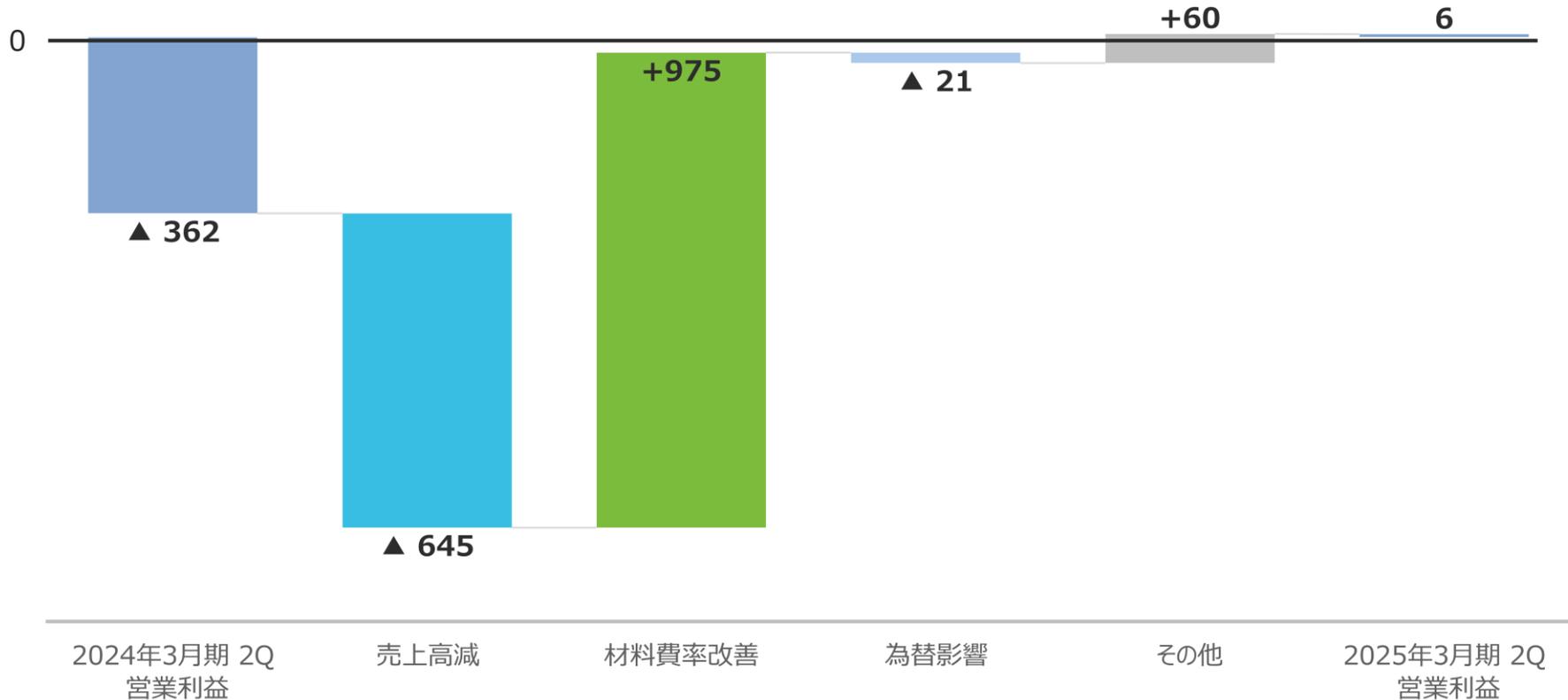
(百万円)	2024年3月期 第2四半期		2025年3月期 第2四半期			
	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)	増減額	増減率(%)
売上高	44,978	100.0%	44,095	100.0%	▲883	▲2.0%
自動車機器	15,672	34.8%	16,801	38.1%	+1,128	+7.2%
エネルギーソリューション	10,752	23.9%	11,143	25.3%	+390	+3.6%
電子機器	17,939	39.9%	15,609	35.4%	▲2,330	▲13.0%
その他事業	613	1.4%	541	1.2%	▲72	▲11.8%
営業利益	▲362	▲0.8%	6	0.0%	+368	-
自動車機器	▲682	▲1.5%	▲184	▲0.4%	+497	-
エネルギーソリューション	1,039	2.3%	952	2.2%	▲86	▲8.3%
電子機器	398	0.9%	490	1.1%	+92	+23.1%
その他事業	▲50	▲0.1%	▲203	▲0.5%	▲152	-
共通	▲1,068	▲2.4%	▲1,049	▲2.4%	+18	-
経常利益	494	1.1%	▲704	▲1.6%	▲1,199	-
親会社株主に帰属する当期純利益	▲188	▲0.4%	▲1,035	▲2.3%	▲846	-
R O E	▲1.7%		▲10.5%		▲8.8pt	
営業利益率	▲0.8%		0.0%		+0.8pt	

営業利益増減要因分析

- 売上高は電子機器事業においてお客様需要影響により減少するも、セールスマックスによる材料費率の改善等により、営業利益は3.6億円の改善

営業利益増減要因

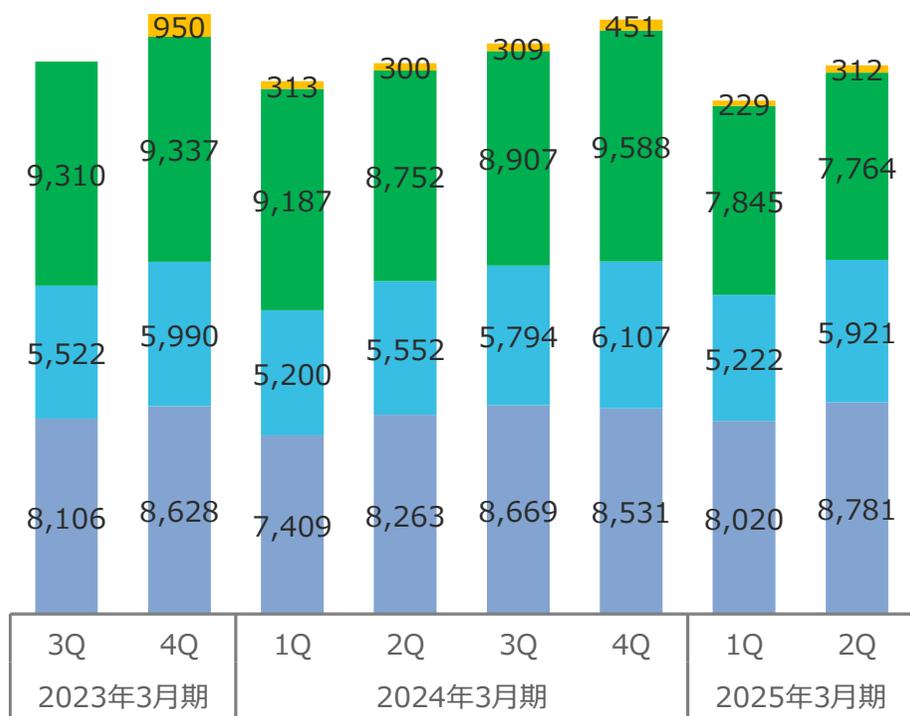
(単位：百万円)



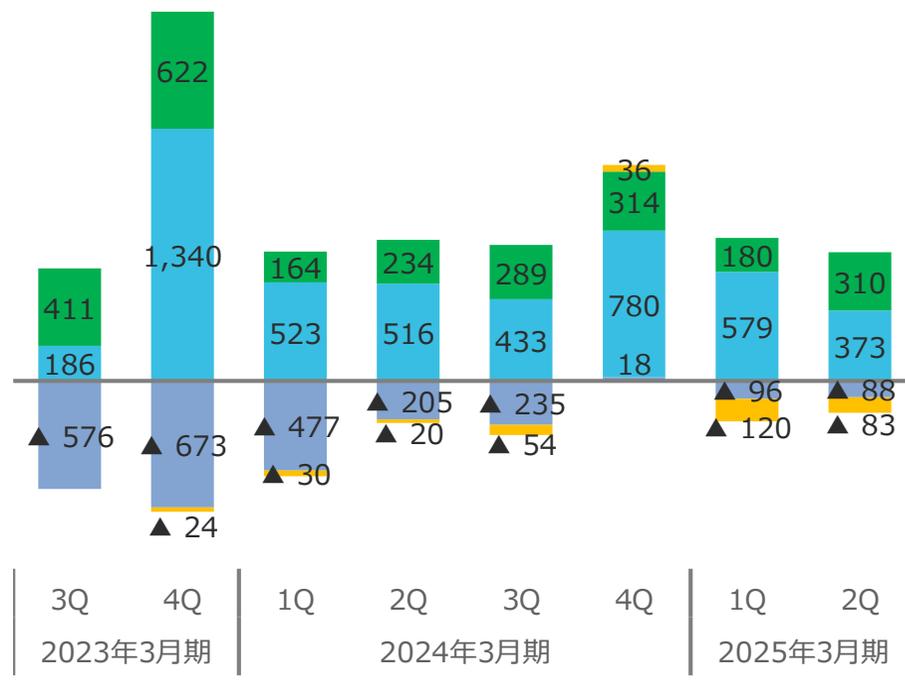
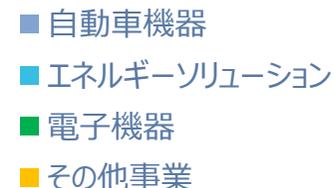
セグメント別四半期業績推移

- 自動車機器事業 :売上高は為替影響により増加、材料費率改善により赤字幅縮小傾向
- エネルギーソリューション事業:売上高は事業区分変更による増加があったものの、セールスマックスの影響により利益は減少傾向
- 電子機器事業 :事業区分変更及び主要なお客様の需要減少の影響により売上高は減少、セールスマックスにより利益は増加傾向

セグメント売上 (四半期・百万円)



セグメント利益(四半期・百万円)



2025年3月期 第2四半期 決算概要 (B/S)

- 受取手形・売掛金25.0億円減少のうち、20.0億円は債権流動化による減少
- 棚卸資産は5.5億円増加のうち、為替変動の影響を受け2.5億円増加、実質2.9億円増加

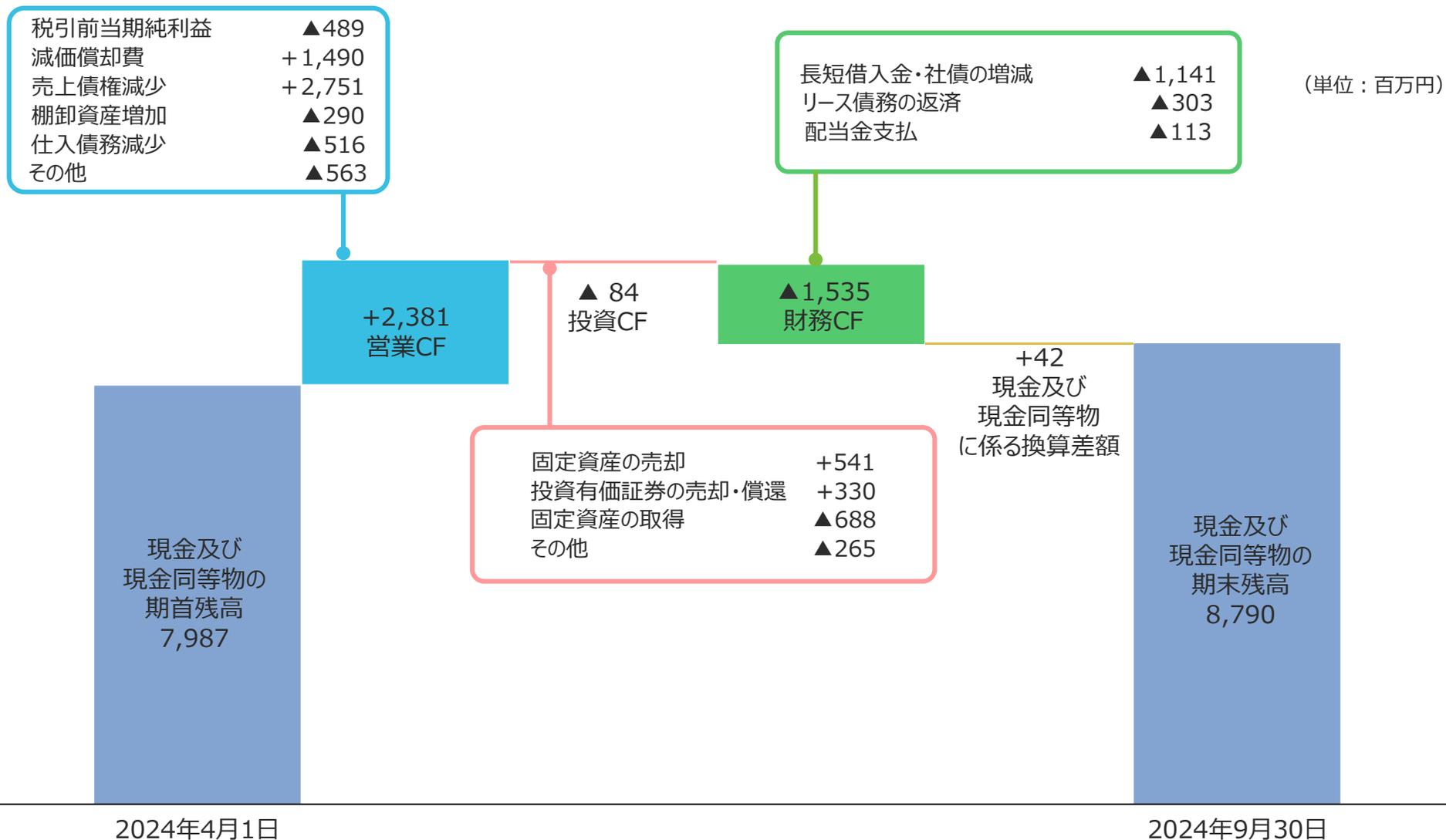
(百万円)	前期		当期		前期末比
	2024年3月期	第4四半期	2025年3月期	第2四半期	増減額
	実績		実績		
流動資産	52,742		50,607		▲2,134
現預金	8,097		9,110		+1,012
受取手形・売掛金	14,759		12,251		▲2,507
棚卸資産*	24,085		24,640		+555
固定資産	29,290		28,305		▲984
有形固定資産	20,541		19,538		▲1,003
総資産	82,032		78,913		▲3,118
支払手形・買掛金	10,002		10,199		+197
電子記録債務	5,818		4,278		▲1,539
有利子負債**	41,885		40,493		▲1,392
負債	71,752		69,149		▲2,603
自己資本	10,141		9,615		▲525
自己資本比率	12.4%		12.2%		▲0.2pt
純資産	10,280		9,764		▲515

*棚卸資産 = 商品及び製品+仕掛品+原材料及び貯蔵品

**有利子負債=短期借入金+1年以内償還社債+1年以内返済長期借入金+社債+長期借入金+リース債務

連結CFの状況

- フリーキャッシュフローは、2024年3月期の▲18.8億円から+22.9億円に改善（+41.8億円）



研究開発費・設備投資額

- 主な設備投資減少要因は、前期の米国主要お客様向け増産対応及びタイ王国での生産拠点集約による投資

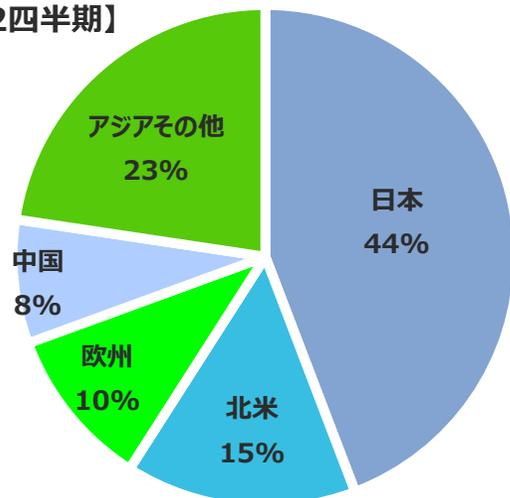
(百万円)	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期		
	実績	実績	増減額	増減率(%)
設備投資	2,465	729	▲1,736	▲70.4%
自動車機器	2,130	304	▲1,826	▲85.7%
エネルギーソリューション	37	81	+44	+118.9%
電子機器	124	70	▲54	▲43.5%
その他事業	38	75	+37	+97.4%
共通	134	198	+64	+47.9%
研究開発費	1,374	1,603	+229	+16.7%
自動車機器	268	511	+243	+90.7%
エネルギーソリューション	866	860	▲6	▲0.7%
電子機器	206	216	+10	+4.9%
その他事業	-	-	-	-
共通	32	14	▲18	▲56.3%
減価償却費	1,313	1,490	+177	+13.5%
自動車機器	862	1,128	+266	+30.9%
エネルギーソリューション	45	10	▲35	▲77.8%
電子機器	290	241	▲49	▲16.9%
その他事業	70	60	▲10	▲14.3%
共通	45	48	+3	+6.7%

地域別決算概要

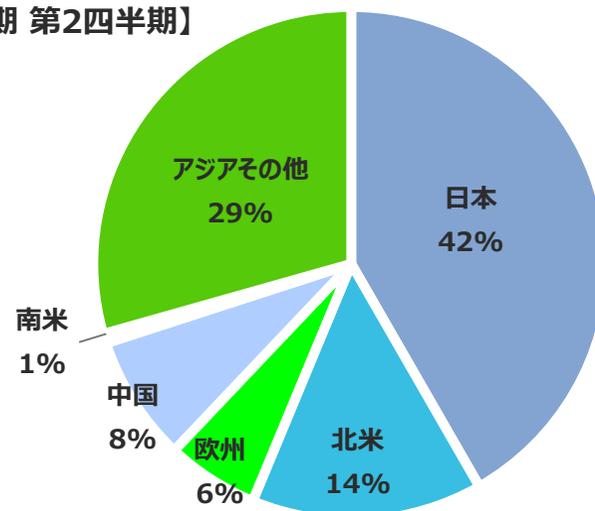
- 日本は主要なお客様の需要の減少により電子機器事業の販売減
- 欧州はヒートポンプ需要の大幅減少により電子機器事業の販売減
- アジアその他はベトナムやタイでのトランス等需要回復、及び、インドでの空調関連の需要増により電子機器事業の販売増

地域別売上高 (%)

【2024年3月期 第2四半期】



【2025年3月期 第2四半期】



地域別実績

(百万円)	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期		
	実績	実績	実績	実績	増減額	増減率
日本	20,334	19,431	19,888	18,397	▲1,491	▲7.5%
北米	4,320	6,252	6,660	6,401	▲259	▲3.9%
南米	0	0	0	268	+268	-
欧州	2,685	2,835	4,669	2,559	▲2,110	▲45.2%
中国	3,490	4,657	3,584	3,503	▲81	▲2.3%
アジアその他	7,895	10,087	10,174	12,964	+2,790	+27.4%

2025年3月期 第2四半期実績（前回予想vs第2四半期実績）

- 自動車機器事業、電子機器事業でお客様需要減少があったものの円安の影響により増収、一方、エネルギーソリューション事業で市場の動きの鈍化及び海外メーカー参入の影響を受け減収したものの、原価低減活動等により、営業利益は修正予想を上回った
- 経常利益は、為替相場の変動影響により為替差損4.6億円を計上したことにより修正予想を下回った

(百万円)	2025年3月期 前回予想		2025年3月期 実績			
	第2四半期	構成比(%)	第2四半期	構成比(%)	前回予想比 増減額	前回予想比 増減率(%)
売上高	43,600	100.0%	44,095	100.0%	+495	+1.1%
自動車機器	16,400	37.6%	16,801	38.1%	+401	+2.4%
エネルギーソリューション	11,600	26.6%	11,143	25.3%	▲456	▲3.9%
電子機器	14,930	34.2%	15,609	35.4%	+679	+4.5%
その他事業	670	1.5%	541	1.2%	▲128	▲19.2%
営業利益	▲50	▲0.1%	6	0.0%	+56	-
自動車機器	▲140	▲0.3%	▲184	▲0.4%	▲44	-
エネルギーソリューション	900	2.1%	952	2.2%	+52	+5.9%
電子機器	320	0.7%	490	1.1%	+170	+53.4%
その他事業	▲30	▲0.1%	▲203	▲0.5%	▲173	-
共通	▲1,100	▲2.5%	▲1,049	▲2.4%	+50	-
経常利益	▲340	▲0.8%	▲704	▲1.6%	▲364	-
当期純利益	▲870	▲2.0%	▲1,035	▲2.3%	▲165	-
ROE	▲8.6%		▲10.5%		▲1.9pt	
営業利益率	▲0.1%		0.0%		+0.1pt	
設備投資	2,948		729		▲2,218	▲75.2%
研究開発費	2,220		1,603		▲616	▲27.8%
減価償却費	1,686		1,490		▲195	▲11.6%

※ 1 USD = 139.00円

※ 1 USD = 152.78円



II. 2025年3月期 通期業績予想

2025年3月期 通期業績予想（前回予想vs第2四半期修正予想）

- 売上高は、自動車機器事業でお客様の新機種立ち上げの後ろ倒し、電子機器事業でお客様需要減少、エネルギーソリューション事業では市場の動きの鈍化及び海外メーカー参入の影響を受け減収、営業利益は、上期に引き続き、全事業で改善を進める一方で自動車機器事業の売上高減少影響を受け、3.5億円減益の見込み
- 経常利益、当期純利益についても、営業利益の減益による影響を受け、下振れの見込み

(百万円)	2025年3月期 前回予想		2025年3月期 第2四半期修正予想			
	通期予想 (8月14日時点)	構成比(%)	通期予想 (11月14日時点)	構成比(%)	前回予想比 増減額	前回予想比 増減率(%)
売上高	92,800	100.0%	87,500	100.0%	▲5,300	▲5.7%
自動車機器	35,400	38.1%	32,800	37.5%	▲2,600	▲7.3%
エネルギーソリューション	26,200	28.2%	24,700	28.2%	▲1,500	▲5.7%
電子機器	29,780	32.1%	28,800	32.9%	▲980	▲3.3%
その他事業	1,420	1.5%	1,200	1.4%	▲220	▲15.5%
営業利益	1,350	1.5%	1,000	1.1%	▲350	▲25.9%
自動車機器	610	0.7%	0	0.0%	▲610	▲100.0%
エネルギーソリューション	2,300	2.5%	2,400	2.7%	+100	+4.3%
電子機器	605	0.7%	800	0.9%	+195	+32.2%
その他事業	15	0.0%	▲200	▲0.2%	▲215	-
共通	▲2,180	▲2.3%	▲2,000	▲2.3%	+180	-
経常利益	590	0.6%	150	0.2%	▲440	▲74.6%
当期純利益	▲200	▲0.2%	▲500	▲0.6%	▲300	-
ROE	▲1.9%		▲4.9%		▲3.0pt	
営業利益率	1.5%		1.1%		▲0.4pt	
設備投資	4,340		1,300		▲3,040	▲70.0%
研究開発費	4,296		3,500		▲796	▲18.5%
減価償却費	3,509		3,100		▲409	▲11.7%

※ 1 USD = 139.00円

※ 1 USD = 139.00円

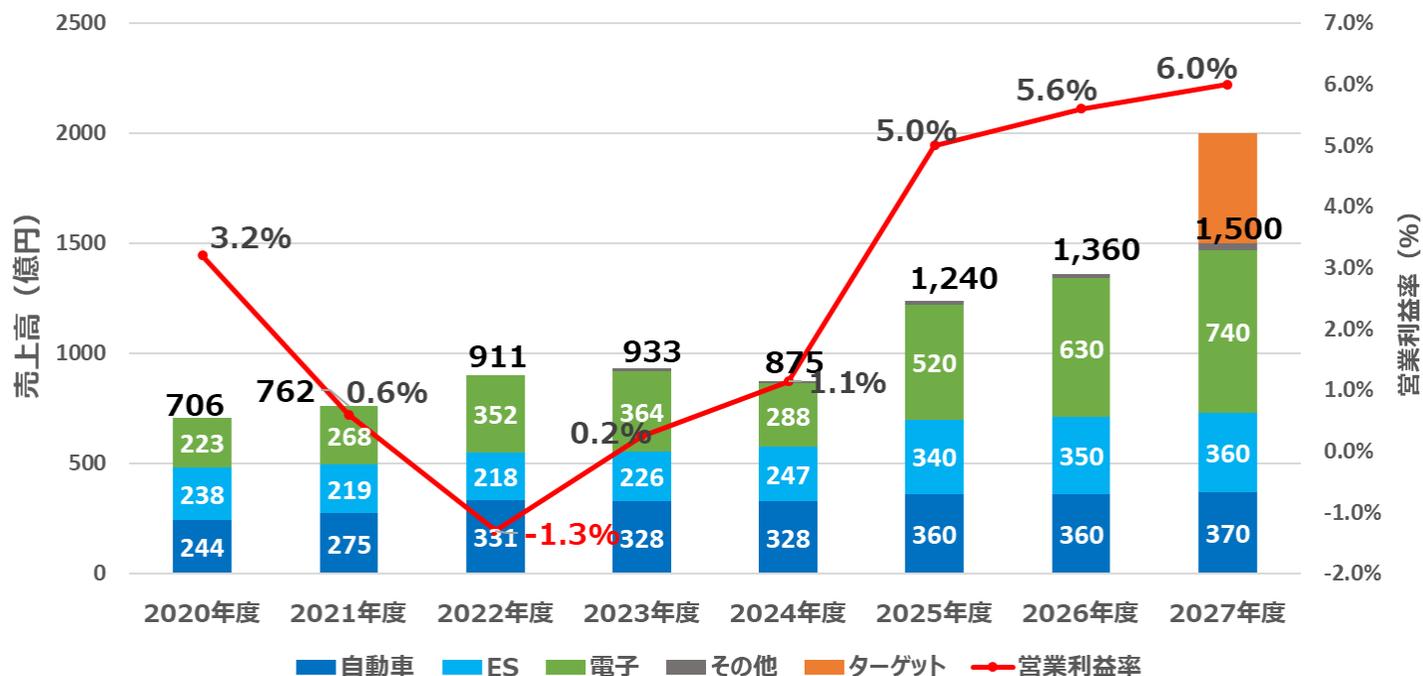
© DIAMOND ELECTRIC HOLDINGS Co., Ltd.



Ⅲ. 社長メッセージ
「我が社の来し方、行く末」

	2024年3月期 実績	2025年3月期予想	2028年3月期 目標
売上高	933 億円	875 億円	ターゲット 2,000 億円 コミットメント 1,500 億円
営業利益率	0.2 %	1.1 %	6 %以上
ROE	▲18.1 %	▲4.9 %	20 %以上

売上高・営業利益率



中長期経営計画【炎のスクラム】 セグメント別目標

*2024/11 アップデート版

自動車機器事業

お客様要求と地球環境の要請に寄り添う技術開発を背景とした市場占有率向上と収益構造改革

エネルギーソリューション事業

お客様との信頼関係に基づき、共同販売戦線を構築し、社会インフラの確立を目指した製品開発を促進

電子機器事業

お客様のグローバル展開への追従及び寄与により、国内エアコン用リアクター市場シェア1位/主要お客様内占有率トップ3を獲得

自動車機器

点火コイルシェア世界No.1

収益構造改革

車載電装品・電子部品のお客様採用戦略遂行

エネルギーソリューション

住宅用蓄電システム
シェア拡大

産業用パワコンの復活

電子機器

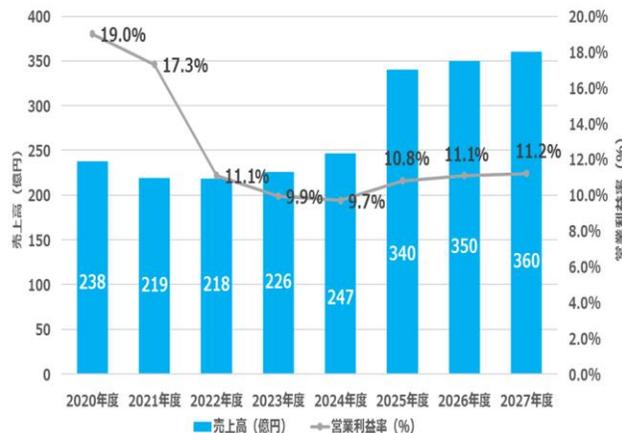
エアコントップメーカー
シェア拡大

リアクター・トランスの拡販

自動車機器事業 売上高・営業利益率



エネルギーソリューション事業 売上高・営業利益率



電子機器事業 売上高・営業利益率

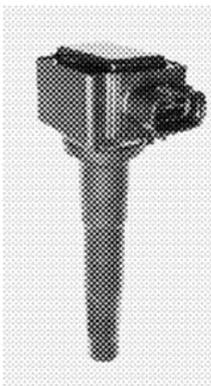


SOPずれこみを、座して待たず

レッドオーシャンで戦い
ブルーオーシャンを泳ぐ

お客様内占有率向上戦略 多面化

年月日	24 10 22	ページ	09	No.	013
-----	----------	-----	----	-----	-----



水素エンジン用
点火コイル

水素エンジン点火コイル 燃焼を安定制御 ダイヤモンドエレHDが受注

ダイヤモンドエレ
クトリックホールディン
グス(HD)は、誤っ

たタイミングによる着火を防ぐ水素エンジン用点火コイルを開発した。技術評価の試作機としてエンジンメーカーから受注した。燃やしても二酸化炭素(CO₂)を発生しない水素エンジンの実用化に、点火コイルメーカーとして参画する。水素は着火し燃え広がりがやいため燃焼の安定制御が難しく、水素エンジンの実用化を阻む要因となっている。ダイヤモンドエレクトリックHDは、シリンダーに残留する点火コイルの電圧が、水素ガスの圧縮時でなく

吸気時に誤って着火を起す現象を解析。圧縮時以外の電圧を抑え、着火を防ぐ技術を開発し、エンジンの出力に必要な高い燃焼圧を得た。

水素は体積当たりの熱量が少なく、高圧縮や高電圧着火による燃焼圧の引き上げも欠かさない。分子が小さく漏れやすい水素ガスを密封する必要もあり、実用化の技術課題は多い。だが、燃焼してもCO₂を生じず、再生可能エネルギーで水を電気分解し生成すれば燃料として長く確保できる。このため多様な用途のエンジンで産官が研究開発に挑んでいる。トヨタ自動車は液体水素を燃料とするエンジン開発に取り組み、レース車で実走し検証している。

日刊工業新聞 — ダイアゼブラ電機株式会社 無断転載・複写禁止 (株)日刊工業新聞社



サイサンは、LPGガス特約店を主なターゲットとするビジネスモデル「ガスワンサミット」を東京テラサホテルで開催した。9月から始まる同社の新年度に合わせて川本武彦社長が営業基本方針を発表、同久日業特約店が「LPG」をターゲットとする商材提案「エネワンSUNSUBプロジェクト」など各種支援策を説明した。

川本社長は新たな販売店支援策として、エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」、カーボンニュートラルの取り組み「エネワンSUNSUBプロジェクト」を紹介した。でんきのキャンペーンはこの日スタートし、12月31日までの申し込みが最大8千円分の「おまけ」をプレゼントする。また、エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」を期間限定で実施する。エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」は、エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」を期間限定で実施する。エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」は、エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」を期間限定で実施する。

「エネワンSUNSUBプロジェクト」は、エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」を期間限定で実施する。エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」は、エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」を期間限定で実施する。エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」は、エネワンでんき「秋のドリームキャンペーン」を期間限定で実施する。

卒F-1T買取優遇開始 新年度の販売支援策発表

サイサン



販売キャンペーンの表彰式などが行われた。第2部のセミナーは、中林美穂子早稲田大学教授が講師に招かれ、米田大経頭選挙について解説した。懇親会では川本武彦社長が挨拶し、「一級石炭改正省令施行による料金透明化の流れは、これまで正々堂々と勝負してきた我々にとっては、ささく追い風だ。これからも商販の真ん中を歩いて行こう」と力強く呼びかけた。

社長ものづくり方針

現場、現場、現場

相手の立場に立つ、本当に立つ

2023年11月11日制定

制定者：代表取締役社長 CEO 兼 グループCEO

小野有理

炭のスクラム



Appendix. 会社概要・事業内容

会社概要

- 「ものづくりを通じてお客様の発展に寄与し、信頼を積み重ね、社会の豊かさに貢献する」という経営理念のもと、エネルギーの利活用
に長じた持続可能な社会の実現に貢献する「ものづくり企業」

会社名	ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社 (DIAMOND ELECTRIC HOLDINGS Co., Ltd.)	
本社	大阪府大阪市淀川区塚本1丁目15番27号	
設立	2018年10月1日	
事業内容	自動車機器事業、電子制御機器事業及び附帯関連する一切の事業を行う子会社等の経営管理 及びそれに附帯又は関連する業務	
代表者	代表取締役社長CEO 兼 グループCEO 小野 有理	
売上高	93,334百万円 (2024年3月)	
経常利益	1,313百万円 (2024年3月)	
親会社に帰属する当期純利益	▲ 1,897百万円 (2024年3月)	
資本金	1,236百万円 (2024年3月末日現在)	
傍楽仲間達 (連結)	3,751名 (2024年3月末日現在)	



当社事業について

自動車機器事業

点火コイル



オンボード
チャージャー



【お客様】

スズキ様 Ford Motor Company様 トヨタ自動車様
Stellantis N.V.様 ダイハツ工業様 SUBARU様
本田技研工業様 三菱自動車工業様
General Motors Company様 BRP-Rotax GmbH &
Co. KG様 比亞迪汽車工業有限公司 (BYD)様
日本特殊陶業様 現代自動車様
パナソニックオートモーティブシステムズ様 豊田自動織機様

エネルギーソリューション事業

パワー
コンディショナ



蓄電システム



V2H (Vehicle to Home) 対応システム



【お客様】

一条工務店様 コアサ商事様 長州産業様
長府工産様 シャープ様 ハンファジャパン様 SMB建材様
※有価証券報告書に記載の売上に順じております。

電子機器事業

インバータユニット・コントローラ



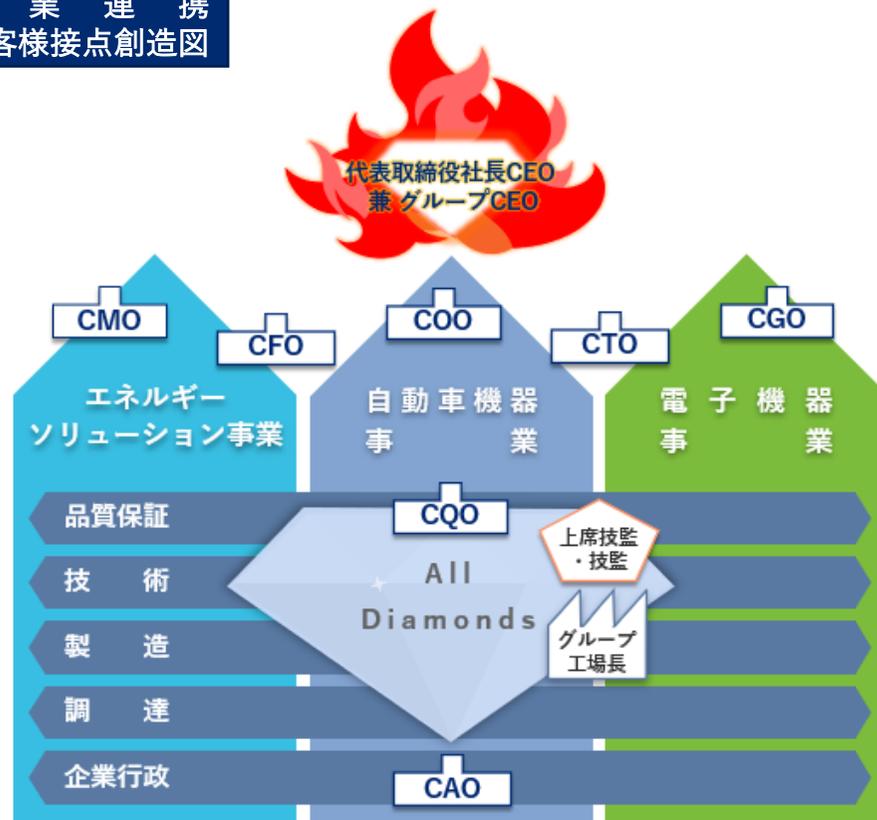
トランス・リアクター



【お客様】

ダイキン工業様 コロナ様 三菱電機様 日本キャリア様
パナソニックホールディングス様 マックス様 キヤノン様
※有価証券報告書に記載の売上に順じております。

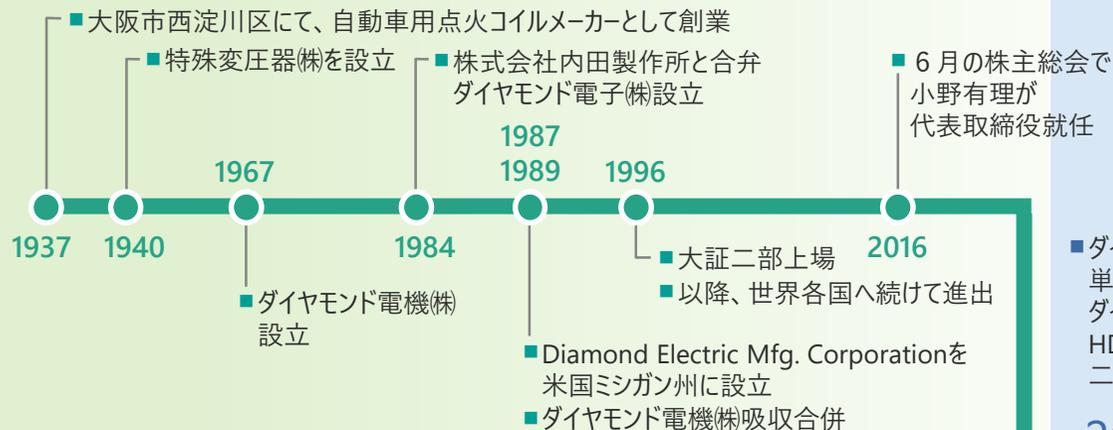
事業連携 お客様接点創造図



- 経営理念、社長三大方針、経営計画書を拠り所とするあり方追求
- 機能軸と事業軸の連携による挙社一致事業目的遂行
- 国籍、性別、年齢、身上不問の世界通年採用
- 退職者を招き入れるウェルカムバック積極実施(2016年夏から)
- 入社時、退職時の社長面談によるエンゲージメント向上

沿革

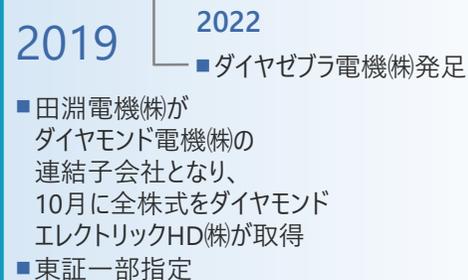
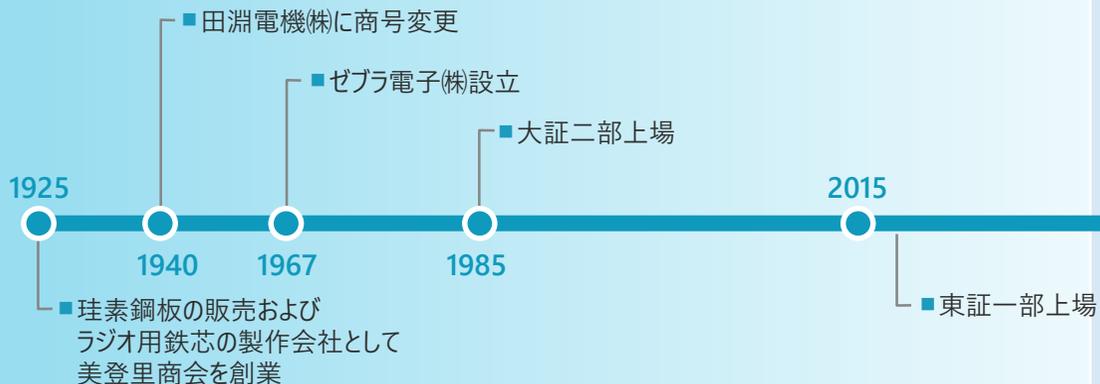
ダイヤモンド電機(株)



ダイヤモンドエレクトリックHD(株)



田淵電機(株)



< 当資料及び見通しに関する注意事項 >

本資料は、当社の財務情報等の提供を目的としておりますが、
内容についてはいかなる保証を行うものではありません。

本資料に掲載しています情報の一部には、業績予想等の将来に関する記述が含まれております。
これらの記述は、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。
実際の業績等の様々な要因により大きく異なる可能性があることをご留意願います。

< お問い合わせ >

下記E-mail宛にお問い合わせ内容をご記入の上、弊社に送信ください。

担当より、メールまたはお電話で回答させていただきます。

E-mail: hd-ir@dia-zbr.co.jp